

初期の子宮頸がんを光で治す

早期検証試験に向けて

関西医科大学は、初期の子宮頸がん患者の福音となる「光線力学的療法」開発に向けたクラウドファンディングを7月5日に発表した。寄付募集期間は8月31日23時まで。目標金額は1千万円。

子宮頸がんの罹患率は2000年以降上昇している。特に初期がんである上皮内腫瘍（前がん状態）の患者が日本では近年増加している。（出典：国立がん

研究センター）がん情報サービス）要因は、感染予防に有効なHPVワクチンの集団接種が2013年に開始され



左から、北正人診療教授、友田幸一学長、岡田英孝教授

るも、僅か2か月で積極的推奨が取り止めとなり、ようやく2022年4月に再開。その間に、ワクチン未接種世代が生まれたことにある。

初期の子宮頸がんの治療法は、子宮温存のための「円錐切除」が中心だが、取り残しや追加治療、再発による子

宮摘出のリスクがある。また、術後の早産率が通常の約5倍と高く、不妊症の原因にもなっている。

関西医科大学の北正人診療教授（産科学・婦人科学講座）は、「患部を切らずに治すこの治療法を、不安を抱える患者さんに一刻も早く届けるため、クラウドファンディングを行います」と訴えている。

詳細は「関西医科大学子宮頸がんレディーフォー」HPで検索
（問）広報戦略室



佐脇（内線：2134）

☎07218042128